

ENEOSホールディングス 2022年度 第2四半期決算説明資料

代表取締役社長 齊藤 猛
常務執行役員 田中 聡一郎

決算ハイライト

P 2

事業環境

P 6

2022年度 第2四半期決算 概況

P 9

2022年度 通期見通し

P 16

参考情報

P 22

決算ハイライト

決算ハイライト（上期実績）

2022年度 上期実績（4-9月累計）

- **在庫影響**：油価上昇や円安影響により、前年比で大幅増益（+1,090億円）
- **在庫影響除き営業利益**：エネルギー事業の大幅減益により前年比減益（▲520億円）
 - ✓ エネルギー事業：▲763億円の前年比減益
 - ・ 輸出を中心に燃料油マージンが高水準であった一方、油価上昇に伴う燃料コストの増加や、ナフサ・石油化学品の市況悪化、電気調達コストの増加などにより大幅減益
 - なお、前年の製油所トラブルの多発に対し、稼働の回復は限定的（➡詳細は5ページ）
 - ✓ 石油・天然ガス開発および金属事業：円安などにより増益

(億円)	前年同期	差異	上期実績	主要諸元	
				前年同期	上期実績
営業利益	3,378	+570	3,948	為替レート ¥/\$	110 / 134
うち在庫影響	(1,692)	(+1,090)	(2,782)	ドバイ原油 \$/B	69 / 102
親会社の所有者に帰属する 当期利益	2,114	+374	2,488	銅 (LME) ¢/lb	433 / 392
在庫影響除き 営業利益	1,686	▲520	1,166	4-6月実績 → 7-9月実績 393 → ▲883 (差異 ▲1,276)	
エネルギー	273	▲763	▲490	① タイムラグ反転 ② 石化・輸出マージン悪化 ③ 白油マージン良化 ほか	
石油・天然ガス開発	388	+216	604		
金 属	787	+23	810		
そ の 他	238	+4	242		

決算ハイライト (通期見通し)

2022年度 通期見通し (2022年4月～2023年3月)

- **営業利益**：円安影響による在庫影響益の増加を見込み、上方修正 (5月公表比 +2,200億円)
- **在庫影響除き営業利益** 5月公表を据え置き
 - ✓ エネルギー事業：▲200億円の下方修正
 - ・ 上期の厳しい業績を踏まえ、下期のトラブル削減による製油所の稼働回復および損益改善策を織り込んだ結果、通期の見通しは前回公表比▲200億円に留まる
 - ✓ 石油・天然ガス開発事業：+200億円の上方修正 (資源価格上昇、円安による良化)
 - ✓ 金属事業：5月公表据え置き (銅価下落による悪化に対し、円安による良化)

(億円)	5月公表		差異	今回公表		主要諸元								
	5月公表			今回公表		(5月公表)		(今回公表)						
						通期	下期	通期	下期					
営業利益	3,400		<u>+2,200</u>	5,600	為替レート ¥/\$	120	120	137	140					
うち在庫影響	(0)		(+2,200)	(2,200)	ドバイ原油 \$/B	90	90	96	90					
親会社の所有者に帰属する					銅 (LME) ¢/lb	420	410	366	340					
当期利益	1,700		<u>+1,600</u>	3,300	<table border="1"> <thead> <tr> <th>上期実績</th> <th>差異</th> <th>下期計画</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>▲490</td> <td>[+1,680]</td> <td>1,190</td> </tr> </tbody> </table>				上期実績	差異	下期計画	▲490	[+1,680]	1,190
上期実績	差異	下期計画												
▲490	[+1,680]	1,190												
在庫影響除き					製油所の稼働回復に加え、 ✓ 電気事業は不採算契約の見直しなどを実行 (燃料費調整制度の上限価格は11/1より廃止済み) ✓ 資産売却を推進 (一部、計画に織り込み)									
営業利益	3,400		±0	3,400										
エネルギー	900		<u>▲200</u>	700										
石油・天然ガス開発	700		<u>+200</u>	900										
金属	1,300		±0	1,300										
その他	500		±0	500										

製油所の安定稼働に向けて

要因分析と対策

… 2021年度よりトラブル削減策を順次展開・実行中

不具合要因を分析
(全社・全製油所横断プロジェクト)

特定した要因を区分
(オペレーション・施工品質・検査・保全関連)

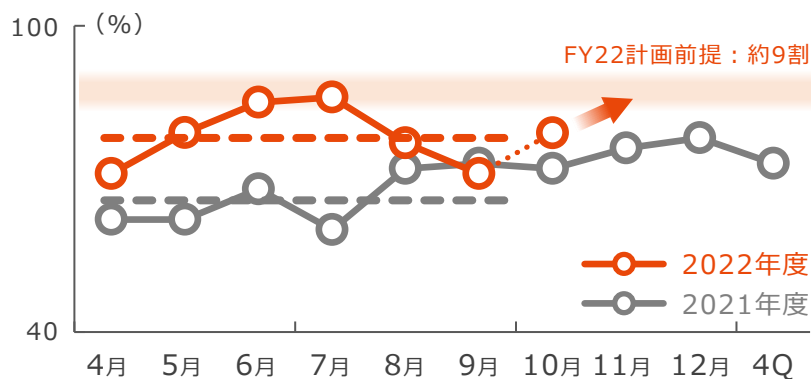
トラブル削減策を立案

上期の状況と効果

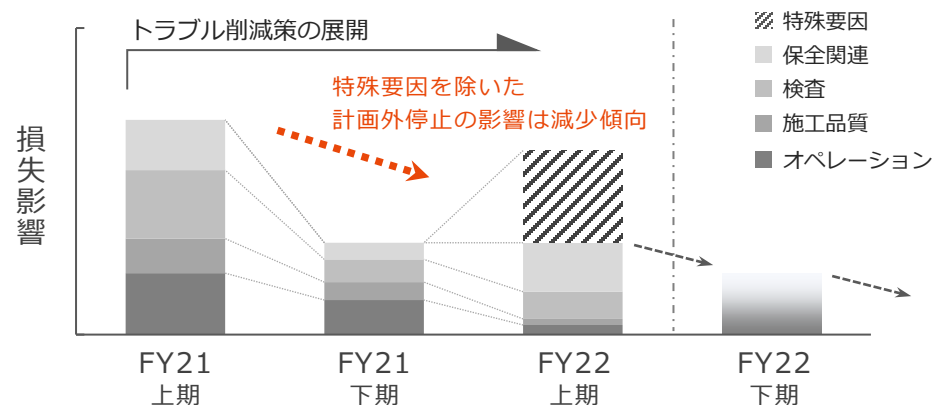
- ✓ 上期は、主に2Qに影響度の大きな特殊要因トラブルが複数発生（地震停止時の緊急補修箇所からの不具合再発など）
 - ➡ 既に対策（補修範囲の拡大等）を実施済み
- ✓ 「オペレーション」・「施工品質（特殊要因を除く）」起因のトラブルは、トラブル削減策の実行により減少
- ✓ 「検査」起因も改善傾向にあり、効果発現に時間を要するものもあるが、操業影響の大きい箇所を優先に前倒し実施
- ✓ 「保全関連」は、十分な改善水準までには至っておらず、地道な取り組みを継続
 - ➡ 重点装置の優先順位見直しや、運転と保全の連携強化、対応人員・組織の強化等の加速化等

▶ 計画レベルの稼働を早期に達成し、基盤事業の“稼ぐ力”を回復すべく全社一丸で取り組む

製油所トッパー稼働率¹



計画外停止による損失影響の推移



事業環境

原油価格・銅価格・為替レート

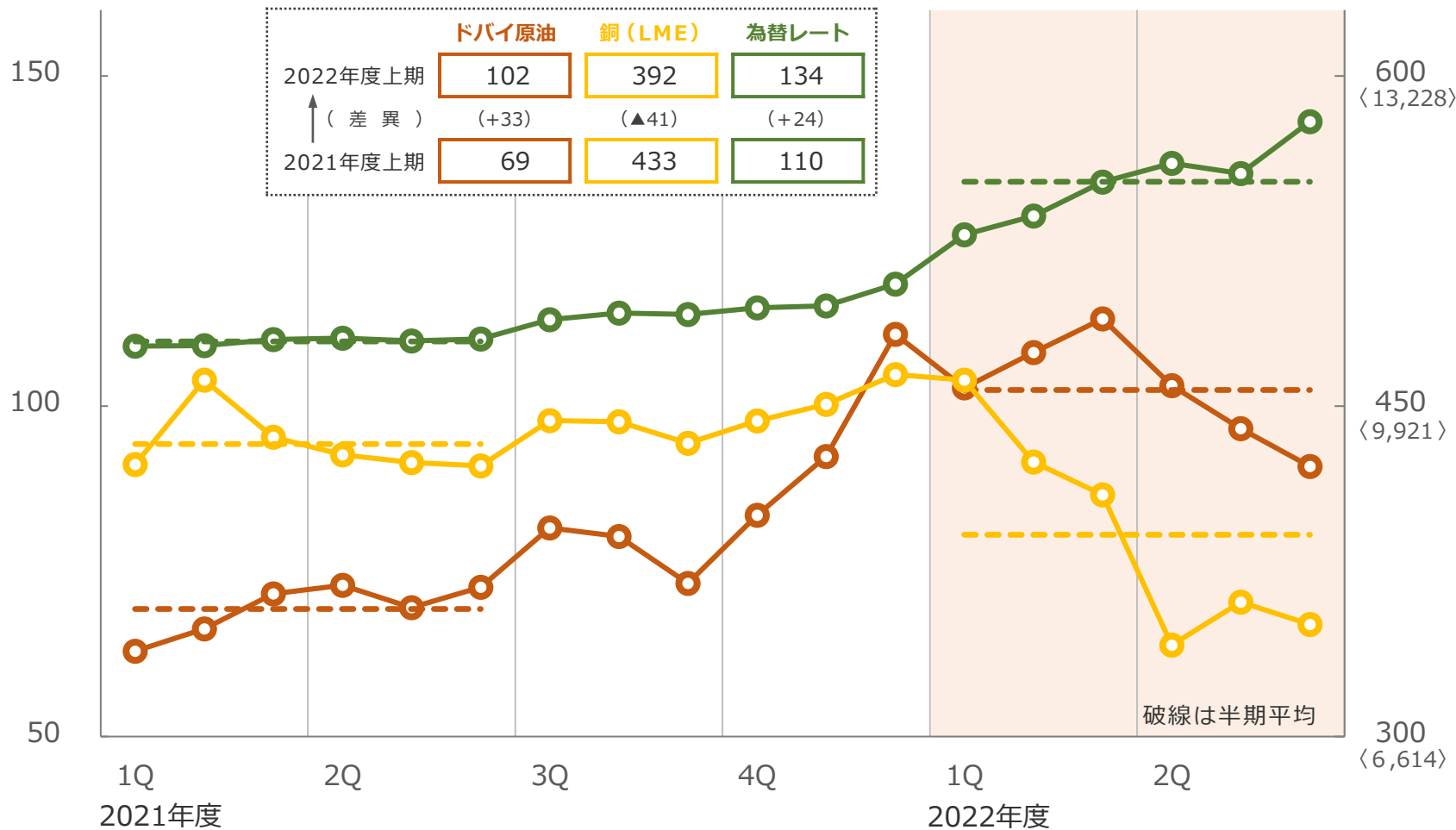
—○— ドバイ原油

—○— 銅 (LME)

—○— 為替レート

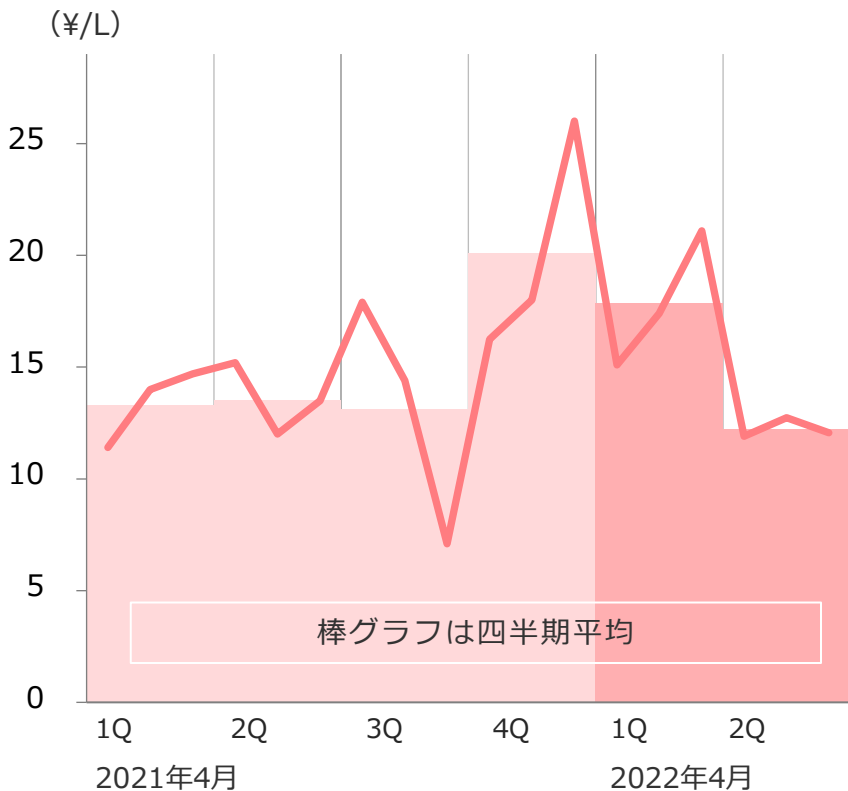
ドバイ原油 (\$/B)
為替レート (¥/\$)

銅 価 (¢/lb)
(\$/ton)

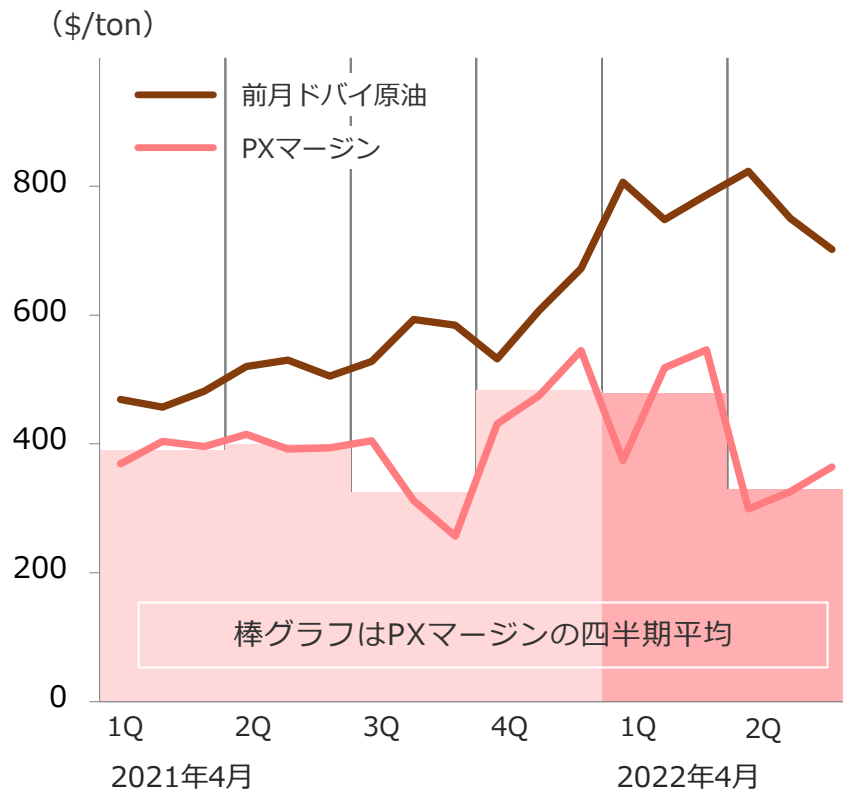


白油4品・パラキシレンマージン指標

白油4品マージン指標 *1



パラキシレン(PX)マージン指標 *2



*1 国内市況の参考値として、以下の計算式により算出
 スポット価格 - 全国通関原油CIF (石油税・金利含み)

*2 アジア市況の参考値として、以下の計算式により算出
 ACP (Asian Contract Price) - 前月ドバイ原油
 未決の月はスポット価格の平均値を使用

※) これらの指標は当社のマージン (当社売価 - 当社コスト) とは異なります

2022年度 第2四半期決算 概況

(2022年4月1日～2022年9月30日)

決算概要（上期実績）

		2021年度 上期実績	2022年度 上期実績	差異	
■ 諸元					
ドバイ原油	(\$/B)	69	102	+33	+48%
銅 (LME)	(¢/lb)	433	392	▲41	▲9%
為替レート	(¥/\$)	110	134	+24	+22%
■ 損益計算書					
売上高	(億円)	47,314	73,940	+26,626	+56%
営業利益	(億円)	3,378	3,948	+570	+17%
在庫影響	(億円)	1,692	2,782	+1,090	+64%
在庫影響除き営業利益	(億円)	1,686	1,166	▲520	▲31%
税引前利益	(億円)	3,282	3,977	+695	+21%
親会社の所有者に帰属する 当期利益	(億円)	2,114	2,488	+374	+18%

セグメント別営業利益（上期実績）

		2021年度 上期実績	2022年度 上期実績	差異	
(億円)					
在庫影響除き営業利益 計		1,686	1,166	▲520	▲31%
セグメント別	エネルギー事業	1,965	2,292	+327	+17%
	在庫影響	1,692	2,782	+1,090	+64%
	在庫影響除き営業利益	273	▲490	▲763	—
	石油製品他	103	▲369	▲472	—
	石油化学製品	65	▲94	▲159	—
	電力	20	▲169	▲189	—
	素材	85	142	+57	+67%
	石油・天然ガス開発事業	388	604	+216	+56%
	金属事業	787	810	+23	+3%
	機能材料・薄膜材料他	274	406	+132	+48%
	資源	292	114	▲178	▲61%
	製錬・リサイクル	200	240	+40	+20%
	事業共通費用等	21	50	+29	+138%
その他	238	242	+4	+2%	

エネルギー事業（上期実績 在庫影響除き営業利益増減）

2021年度
上期
(実績)

エネルギー事業 ▲763 (273→▲490)

2022年度
上期
(実績)

石油製品 他
▲472 (103→▲369)

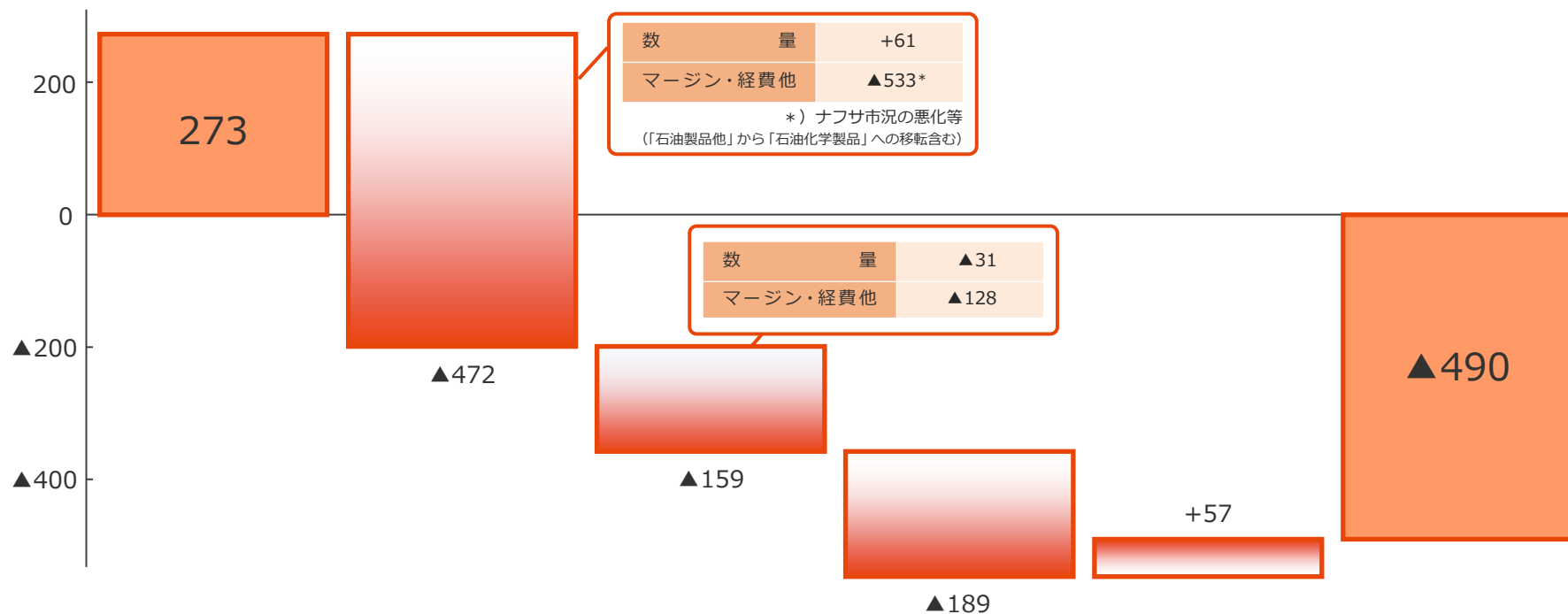
石油化学製品
▲159 (65→▲94)

電力
▲189 (20→▲169)

素材
+57 (85→142)

製油所トラブルの改善が限定的に留まり、高水準な輸出環境を享受できず。加えて、ナフサ・石化の市況悪化や油価上昇に伴う燃料コストの上昇、電力セグメントでの減益もあり大幅減益

(億円)



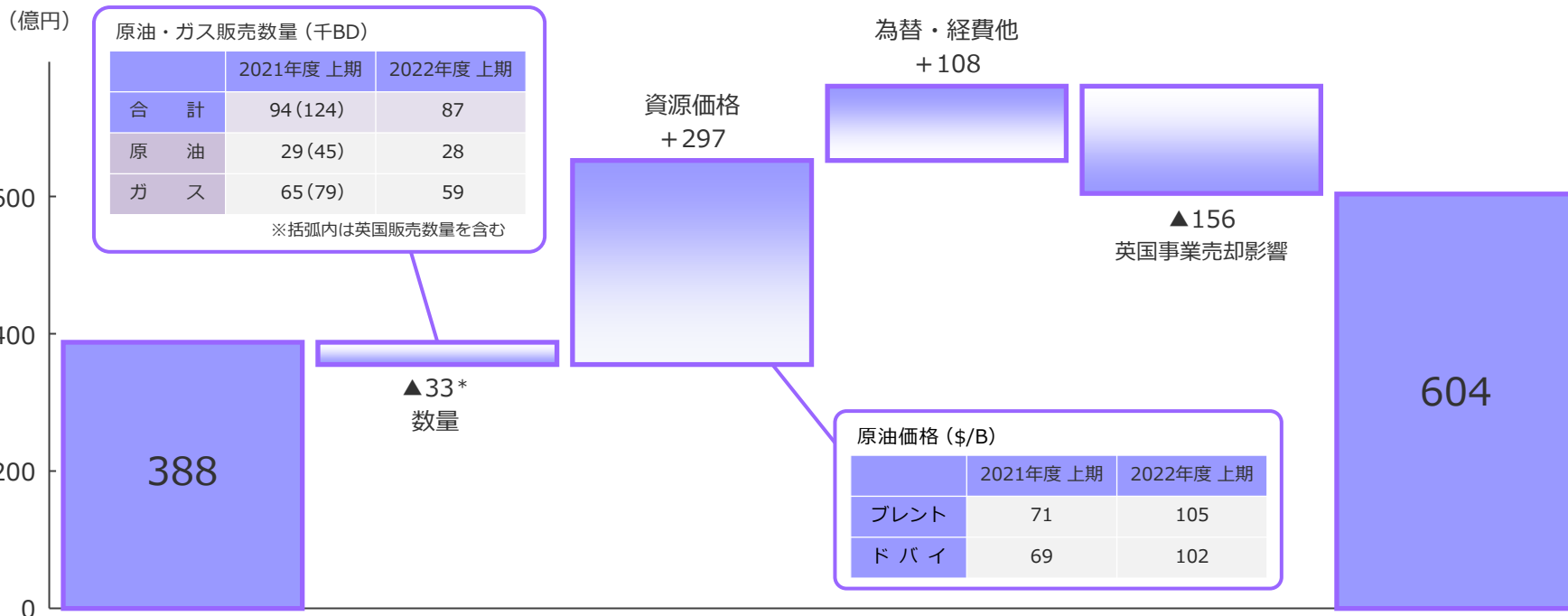
石油・天然ガス開発事業（上期実績 営業利益増減）

2021年度
上期
(実績)

石油・天然ガス開発事業 +216 (388→604)

2022年度
上期
(実績)

英国事業売却に伴う前期計上利益の剥落があるものの、資源価格上昇および円安影響により増益



*) 英国販売数量除き

金属事業 (上期実績 営業利益増減)

2021年度
上期
(実績)

金属事業 +23 (787→810)

2022年度
上期
(実績)

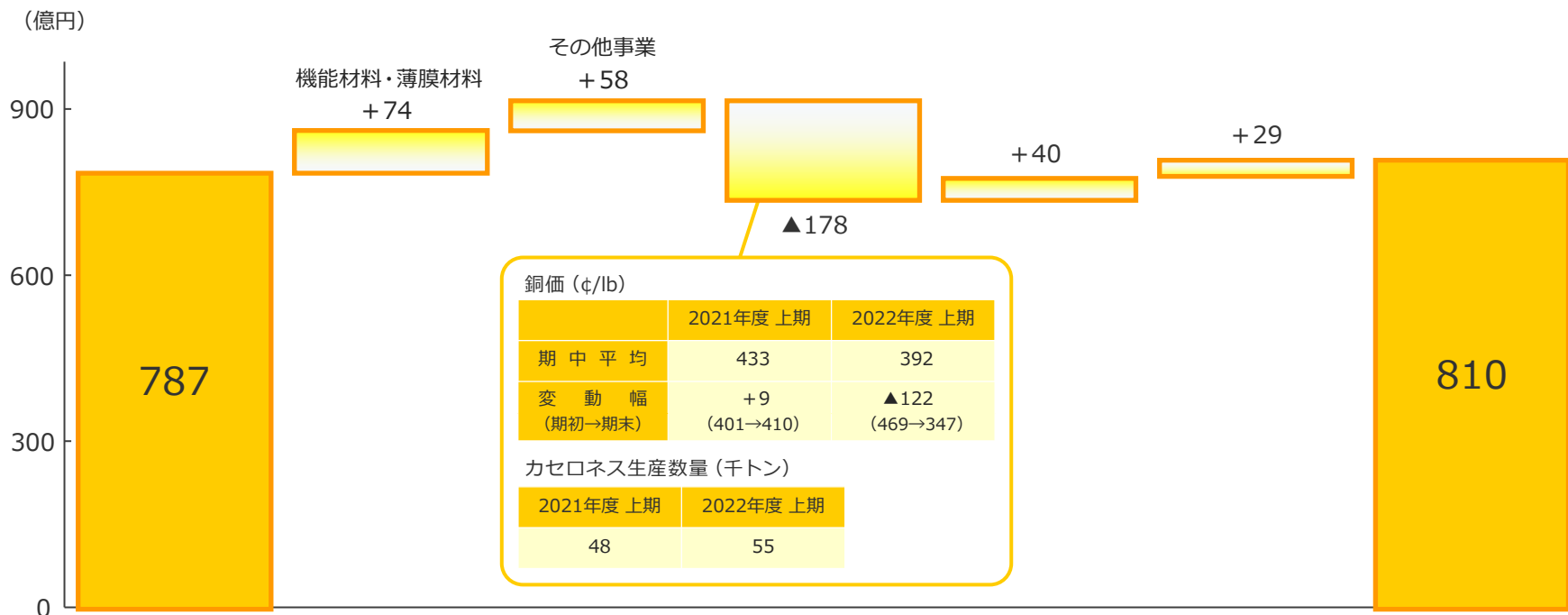
機能材料・薄膜材料他
+132 (274→406)

資源
▲178 (292→114)

製錬・リサイクル
+40 (200→240)

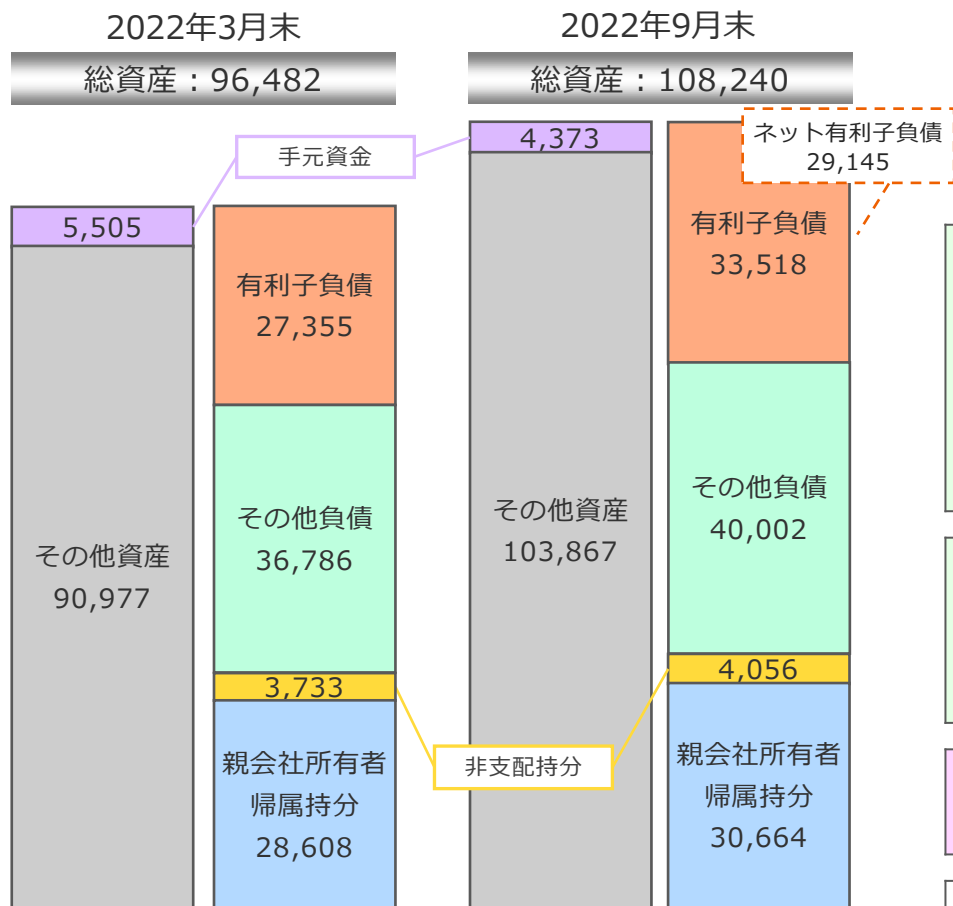
事業共通費用等
+29 (21→50)

銅価下落や燃料・電気代上昇はあったものの、円安影響、カセロネス増産、硫酸市況の良化等により増益



連結バランスシート / 連結キャッシュフロー

連結バランスシート



	2022年3月末	2022年9月末
親会社所有者帰属持分比率	29.7 %	28.3 %
ネットD/Eレシオ* —資本合計ベース—	0.68 (0.60)	0.84 (0.76)

連結キャッシュフロー

	2022年度 上期 (実績)	
	財務会計ベース	IFRS第16号 「リース」適用除き
(億円)		
営業利益 (在庫影響除き)	1,166	1,166
減価償却費	1,732	1,318
運転資金増減 他	▲6,936	▲6,936
営業キャッシュフロー (休日影響除き)	▲4,038 (▲4,835)	▲4,452 (▲5,249)
設備投融资	▲2,769	▲2,769
その他	2,193	2,193
投資キャッシュフロー	▲576	▲576
フリーキャッシュフロー (休日影響除き)	▲4,614 (▲5,411)	▲5,028 (▲5,825)
配当 他	▲1,960	▲1,546
ネットキャッシュフロー (休日影響除き)	▲6,574 (▲7,371)	▲6,574 (▲7,371)

*) 括弧内はハイブリッド社債資本性調整後 (3,000億円の50%を資本算入)

2022年度 通期見通し (2022年4月1日～2023年3月31日)

【2022年10月以降前提条件】原油価格：90ドル/バーレル 銅価：340セント/ポンド 為替：140円/ドル

決算概要（通期見通し）

		2022年度 通期見通し (5月公表)	2022年度 通期見通し (今回公表)		差異		(参考) 2021年度 通期実績
			下期				
■ 諸元							
ドバイ原油	(\$/B)	90	90	96	+6	+7%	78
銅 (LME)	(¢/lb)	420	340	366	▲54	▲13%	440
為替レート	(¥/\$)	120	140	137	+17	+14%	112
■ 損益計算書							
売上高	(億円)	128,000	149,000		+21,000	+16%	109,218
営業利益	(億円)	3,400	5,600		+2,200	+65%	7,859
在庫影響	(億円)	0	2,200		+2,200	-	3,703
在庫影響除き 営業利益	(億円)	3,400	3,400		±0	±0%	4,156
税引前利益	(億円)	3,100	5,400		+2,300	+74%	7,718
親会社の所有者に帰属する 当期利益	(億円)	1,700	3,300		+1,600	+94%	5,371

4-6月 450¢/lb
7月以降 410¢/lb

セグメント別営業利益（通期見通し）

(億円)

		2022年度 通期見通し (5月公表)	2022年度 通期見通し (今回公表)	差異		(参考) 2021年度 通期実績
在庫影響除き営業利益 計		3,400	3,400	±0	±0	4,156
セグメント別内訳	エネルギー事業	900	2,900	+2,000	+222%	4,775
	在庫影響	0	2,200	+2,200	—	3,703
	在庫影響除き営業利益	900	700	▲200	▲22%	1,072
	石油製品他	830	1,090	+260	+31%	1,262
	石油化学製品	▲20	▲380	▲360	—	▲68
	電力	▲260	▲270	▲10	—	▲190
	素材	350	260	▲90	▲26%	68
	石油・天然ガス開発事業	700	900	+200	+29%	970
	金属事業	1,300	1,300	±0	±0%	1,582
	機能材料・薄膜材料他	570	700	+130	+23%	545
	資源	800	340	▲460	▲58%	721
	製錬・リサイクル	320	310	▲10	▲3%	410
	事業共通費用等	▲390	▲50	+340	—	▲94
その他	500	500	±0	±0%	532	

エネルギー事業 (通期見通し 在庫影響除き営業利益増減)

2022年度
通期見通し
(5月公表)

エネルギー事業 ▲200 (900→700)

2022年度
通期見通し
(今回公表)

石油製品 他
+260 (830→1,090)

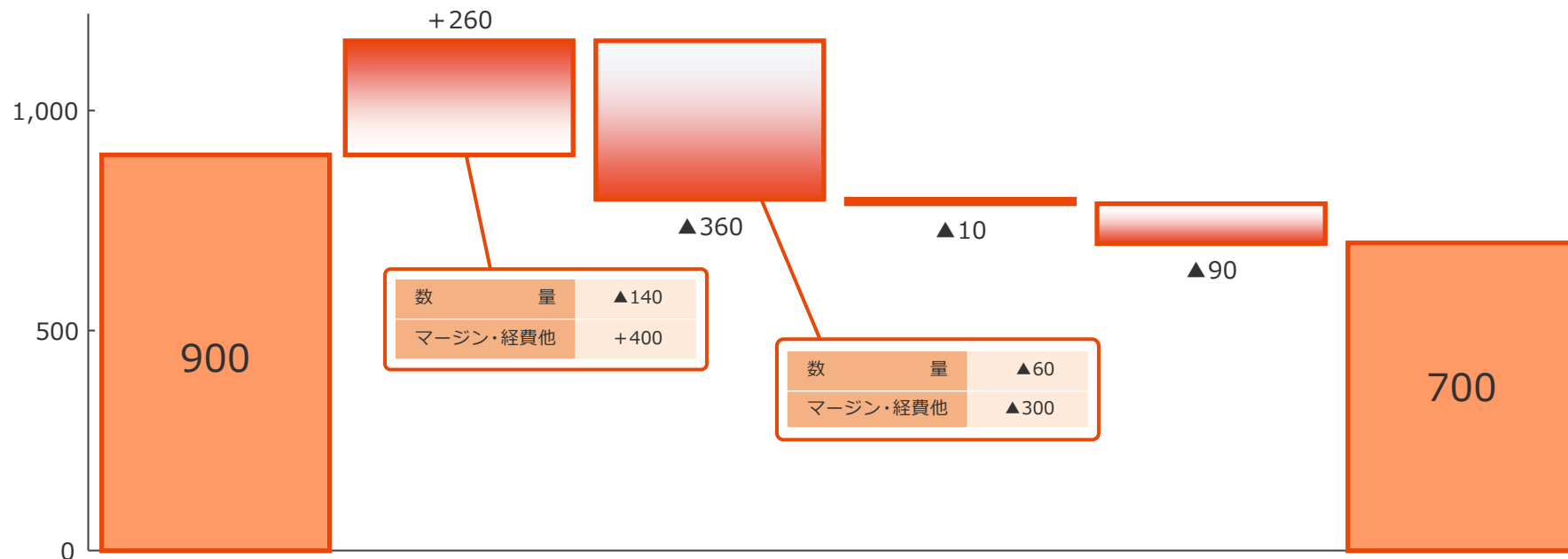
石油化学製品
▲360 (▲20→▲380)

電力
▲10 (▲260→▲270)

素材
▲90 (350→260)

上期でのトラブル影響や、ナフサ・石化セグメントの減益を見込むものの、下期でのトラブル回復に加え、損益改善策に取り組み、5月公表比▲200に留まる見通し

(億円)



石油・天然ガス開発事業 (通期見通し 営業利益増減)

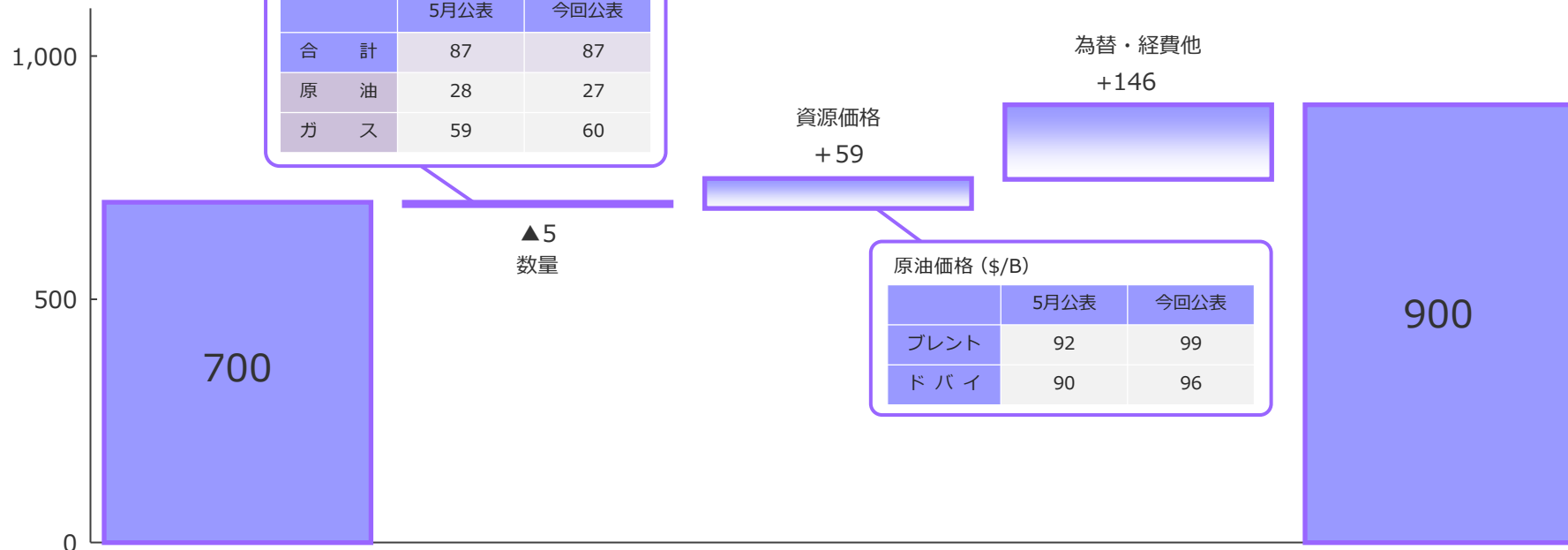
2022年度
通期見通し
(5月公表)

石油・天然ガス開発事業 +200 (700→900)

2022年度
通期見通し
(今回公表)

資源価格上昇および円安影響を主因に増益の見通し

(億円)



原油・ガス販売数量 (千BD)

	5月公表	今回公表
合計	87	87
原油	28	27
ガス	59	60

原油価格 (\$/B)

	5月公表	今回公表
ブレント	92	99
ドバイ	90	96

金属事業 (通期見通し 営業利益増減)

2022年度
通期見通し
(5月公表)

金属事業 ±0 (1,300→1,300)

2022年度
通期見通し
(今回公表)

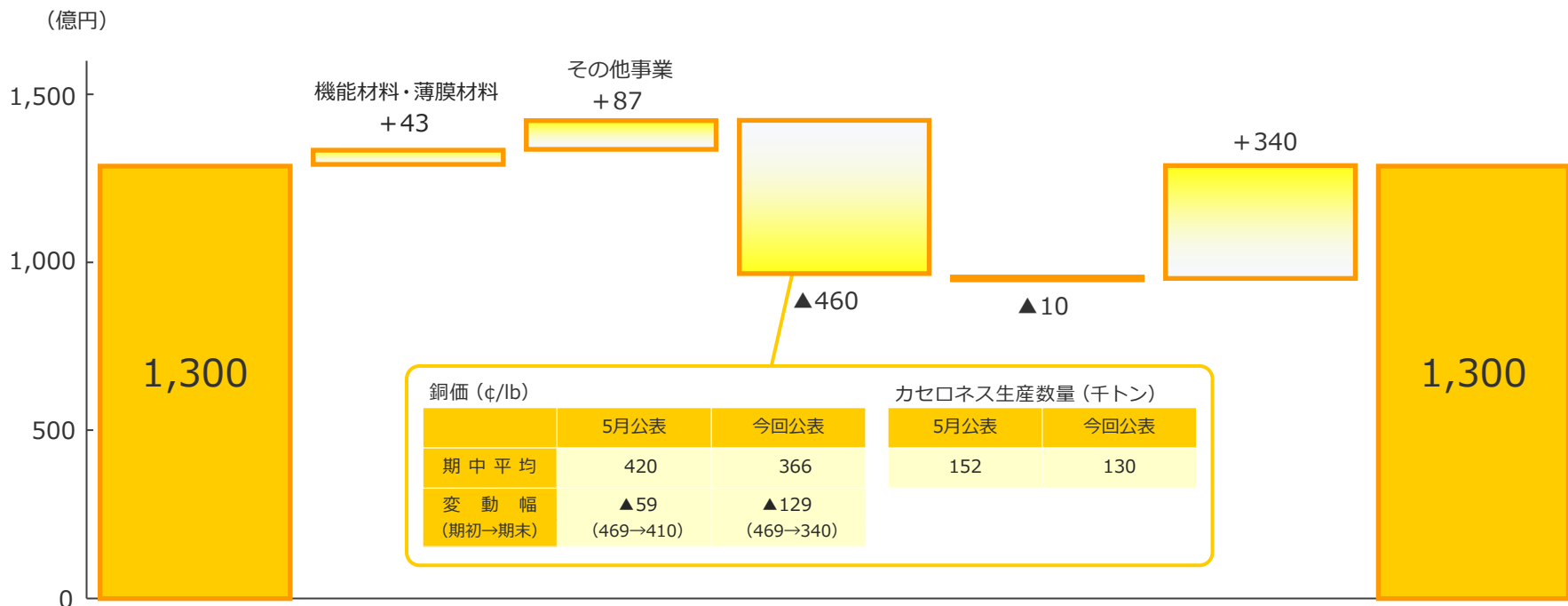
機能材料・薄膜材料他
+130 (570→700)

資源
▲460 (800→340)

製錬・リサイクル
▲10 (320→310)

事業共通費用等
+340 (▲390→▲50)

先端素材減販、銅価下落、カセロネス減産はあるものの、円安影響、経費見直し等により5月公表並みの見通し



参考情報

前提条件

			FY2021			FY2022		
			1Q	上期	通期	1Q	上期	通期
			実績	実績	実績	実績	実績	見通し (11月公表)
共通	為替レート	(¥/\$)	109	110	112	130	134	137
エネルギー	トバイ原油	(\$/B)	67	69	78	108	102	96
石油・天然 ガス開発	原油換算販売数量*1	(千B/日)	98	94	93	88	87	87
	ブレント原油	(\$/B)	69	71	80	112	105	99
金属	銅 (LME)	(¢/lb)	440	433	440	432	392	366
	銅鉱山権益生産量*2	(千トン/年)	48	90	195	50	92	213
	PPC銅販売量	(千トン/年)	148	306	586	150	322	646
	精密圧延品生産品販売量	(千トン/月)	3.9	3.9	3.9	3.7	3.6	3.5

* 1) 2021年度以降、英国事業除き * 2)

	通期
カセロネス	4月～3月
ロス・ペランプレス	4月～3月
エスコンディータ	1月～12月

■ 諸元の変動による2022年度営業利益への影響額（2022年10月以降）

		(億円)	
項目	変動幅	変動項目	影響額
ドバイ原油	5\$/B 上昇	エネルギー	(-) 10
		石油・天然ガス開発	(+) 20
		小計	(+) 10
		在庫影響	(+) 470
		合計	(+) 480
銅 (LME)	10¢/lb 上昇	金属	(+) 40
		合計	(+) 40
為替レート	5¥/\$ 円安	エネルギー	(+) 20
		石油・天然ガス開発	(+) 20
		金属	(+) 30
		小計	(+) 70
		在庫影響	(+) 300
		合計	(+) 370

2022年上期の主な事業トピックス

基盤
(競争力強化)

<事業ポートフォリオの見直し>

- ✓ ミャンマーの石油・天然ガス開発事業の撤退を決定
- ✓ 韓国の銅製錬事業者 (LS-Nikko Copper Inc.) の株式売却を決定

2022年5月 公表

2022年5月 公表

新サービス
素材・

<技術立脚型事業の獲得・拡大>

- ✓ ナノワイヤー成長技術・製造装置の開発を手掛けるNanoWired GmbHへの出資を決定

2022年7月 公表

<新サービスの推進>

- ✓ イクシスとロボティクスを活用したプラント等の保守点検サービス事業に関する協業検討を開始

2022年6月 公表

次世代型エネルギー供給・環境対応

<次世代型エネルギーの供給拠点・ネットワークの構築>

- ✓ 日本電気株式会社 (NEC) から取得した電気自動車充電サービス事業の運営を開始
- ✓ 清水製油所跡地を中心とする次世代型エネルギー供給拠点・ネットワークの構築を決定
- ✓ 浮体式洋上風力発電所の実現に向け、五島市沖にて海上風車組立作業を開始

2022年6月 開始

2022年8月 公表

2022年10月 公表

<水素サプライチェーンの構築>

- ✓ アラブ首長国連邦-日本間のクリーン水素サプライチェーン構築に向けた協業検討を開始
- ✓ 北海道大規模グリーン水素SC構築調査・羽田空港及び周辺地域における水素利用調査がNEDO事業に採択
- ✓ 国産バイオマスからのCO₂ネガティブ水素製造に係るBECCS*一貫実証モデルに関する調査がNEDO事業に採択

2022年6月 公表

2022年10月 公表

2022年10月 公表

<環境対応型事業の推進>

- ✓ ドイツ国内のLiBリサイクル技術開発コンソーシアム"HV BatCycle"へ参画
- ✓ E-waste (廃家電・廃電子機器) 回収・処理事業者 eCycle Solutions Inc. の全株式を取得
- ✓ ペトロナスおよび日揮HDとマレーシアにおけるCCSプロジェクト開発に向けた共同スタディ覚書を締結

2022年6月 公表

2022年8月 公表

2022年10月 公表

<その他>

- ✓ ENEOSグループのカーボンニュートラル計画を新たに策定
- ✓ 国内初のトランジション・リンク・ボンドの発行を決定

2022年5月 公表

2022年5月 公表

* BECCS = BioEnergy with Carbon Capture and Storageの略。CCSとバイオマスエネルギーを結び付けた技術を指す造語

本資料には、将来見通しに関する記述が含まれていますが、実際の結果は、様々な要因により、これらの記述と大きく異なる可能性があります。

かかる要因としては、

- (1) マクロ経済の状況またはエネルギー・資源・素材業界における競争環境の変化
- (2) 新型コロナウイルス感染症による経済活動への影響
- (3) 法律の改正や規制の強化
- (4) 訴訟等のリスク など

が含まれますが、これらに限定されるものではありません。